

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

猿田興業株式会社
代表取締役社長 猿田 知久氏

秋田市生まれ。秋田高校、慶應義塾大学商学部卒業。第一勧業銀行（現みずほ銀行）へ入社し都内支店融資担当、本店勤務等を経て1999年猿田興業（株）常務取締役就任。2018年代表取締役社長就任。



社員が安心して働ける環境のためにも人材育成が重要課題

工藤 いつもお世話になります。猿田社長は確か秋田市のお生まれ。社長の簡単なお経歴を教えてくださいませんか？

猿田 はい。秋田県秋田市の生まれで、高校まで秋田にいました。小学校・中学校は野球部でしたね。部活動もそんなに選択肢があるわけではなかったというのがありますが、当時は野球の人气が高かったので選びました。ただ高校では少し真剣に勉強にも取り組みました。自分の世界を広げてみたいと思い、割と真面目に淡々と勉強し、学校行事にもきちんと参加するような高校生活だったかもしれません。その後、慶応大学商学部に入学生、英語サークルに入りました。当時、私は英会話や、外国旅行などにも強い興味があったため、それ相応の英語力も重要だと感じ挑戦しました。もちろん受験でも英語は勉強しましたが、実際に話したり聞いたりする機会は多くはなく、その点では英語サークルは参加人数も多かったので色々な人と出会えるチャンスもあり英語でのディスカッションやディベートやスピーチなど、私にとってはとても刺激的で充実した内容でした。

工藤 とても楽しそうですね。活動で特に印象に残っていることなどはございますか？

猿田 京都大学や同志社大学など、他校のサークルと英語でディスカッションの対抗戦をしたのが印象に残っています。1テーブル7～8人で経済問題や貿易摩擦などの社会課題などをテーマにディスカッションをする

形式でした。もちろん他校のキャンパスに行くこともあり、ディスカッション終了後には、みんなで集いワイワイしながらさらに議論したり親交を深めたりしました。今でも充実した思い出として心に残っています。英語であることはもちろん、そもそものテーマも複雑なので、日常英会話とは違い、専門用語も多く結構苦労しました。当然ですが下調べも必要になります。そして難しくても最終的には何かしらを伝えきること大事だったので、そういった経験が出来たことは大きいです。また大学の時に海外旅行へ一度だけ行くこともできました。当時の仲間達とは今でも交流が続いています。大学4年間を真剣に向き合ってきたものが様々な形で自分の成長に繋がったと感謝しています。

工藤 昔に比べ今はグローバル社会ですが、当時は外国語や外国人と触れる機会が今よりは明らかに少なかった分、その時代にできた経験は貴重ですね。大学卒業後は？

猿田 卒業後は銀行へ就職しました。15年間在籍しましたが、今もお付き合いをしている方が多くいますし、銀行で培ったものはたくさんありました。昭和の終わり頃でバブルに入っていく時期でしたので、「24時間戦えますか」という時代。今考えても大変だったと思う反面、やりがいもありました。15年勤務した後、社長だった父が病気で倒れたことをきっかけに、平成11年に秋田に戻ってきました。父の後は兄が社長になり、その後5年前

から私が三代目として経営を引き継いでおります。私が生まれた年に会社が創立したので、会社は今年で62年目です。

工藤 色々苦勞も多かったようですが、入社当時は、どういう立場から始められたのでしょうか？ また事業の概況などもあわせて教えてくださいませんか？

猿田 来てすぐ常務取締役になり、その後もなく兄が社長になり、同時に私も各部門の責任者と共に会社全体に目を配る役割になりました。弊社では主に製造業向け原材料の調達・加工や製品の物流をはじめ、消防防災安全機器の販売・工事・メンテナンス、不動産業など幅広く事業を展開しています。特に製紙事業では全国大手の製紙メーカーの工場内業務を行っています。紙などの原料を工場に受入れし、実際に製品を製造し、出来上がったものを国内外に運搬、という一連の流れを随所で弊社が担っています。製紙メーカーとの関わりが深い中で、近年はペーパーレス社会に変わりつつある中、製紙メーカーもどのように業務転換をしていくかは、今後の大きなテーマの一つです。また社会的にはリサイクルの需要も高まっていますので、古紙再生事業などは社会的にも重要な仕事の一つだと思っています。また他では不法投棄の問題等にも、行政と協力しながら対応しています。

工藤 なるほど。SDGsの分野にもなりますね。その他の課題はございますか？

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

猿田 人材育成は重要な課題です。社員が少しずつレベルアップし、指示されたことをやるだけの社員ではなく、一人一人が問題意識を持ち、改善する意欲や様々な効率化をしていく意欲を持ってもらえるようにしたいと思っています。そして管理職のスキルももっと高められるように、課長は部長に、部長は役員に、一人一人の能力はもちろん、向上心を高めていくことも重要だと思っています。社員の資質向上を通じて会社の更なる売上や収益の向上につなげ、社員に生活や将来に不安を感じさせない会社の運営を目指しています。また育児や介護などが一段落して仕事に復帰したい思いのある優秀な人たちのセカンドステージも応援したいです。しかしそれを実現するうえで、世代間のギャップによるマネジメントの難しさなどは悩ましい問題だと感じています。生きてきた時代も環境も違えば、おのずと価値観も異なってくるわけで、その違いをどちらかに無理やり合わせるのも違うことで、その違いに向き合い、多様性を尊重しあいながら、みんなで考え構築していくことが足がかり？とは思っていますが、口で言うほどシンプルではないようにも感じています。

工藤 最近特に人材育成が課題と感じている企業は多いですね。私も近年、社員研修の

お手伝いなどをさせていただく機会が増えている実感があります。また若手社員との考え方のギャップに悩む管理職のお話もよく聞きます。起業についても伺いたいのですが、秋田という事業環境の中で、チャンスやメリットに感じることなどはございますか？

猿田 コロナでリモートワークなどが増え、特に首都圏などでは、これまでのように満員電車で決まった時間に通勤し、決まった時間に帰社するというスタイルは一部が様変わりしました。場所を問わずに仕事ができるという意味では、都会よりも圧倒的に自然が豊かな素晴らしい秋田の環境に魅力を感じてもらえればと思います。加えて家賃などの拠点コストも圧倒的に抑えられるはずで、企業として同じ業務が秋田でもできるなら、少なくとも運営コストが抑えられるというメリットは確実にあると思います。

工藤 出ていくお金が小さくなることは、確

実に経営に優しいことになりますね。最後に猿田社長の日常生活における、趣味や日課等があれば教えていただけますでしょうか？

朝の散歩が日課 クリアに考える大切な時間

猿田 趣味や日課らしきものと言えば、日々散歩をするように心掛けていることでしょうか。朝5時半に起きて6時から40分くらい散歩しています。やはり早朝は静かなので、歩いていると気持ち良いですし、気分転換にもなります。また歩いているときは色々なことをクリアに考えることができます。仕事のこと、家族のこと、趣味のこと、毎日色々なことを思い浮かべながら歩いています。もちろん健康にもよいですから、朝の散歩は本当におすすめです。

工藤 普段よりクリアに考えられる！それはとても魅力的ですね。前向きに考えてみます。

本日は貴重なお時間とお話を本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHERS 立花三央

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

